

みづゑ

第八十四

明治四十五年二月三日發兌

水彩繪具の談

石川 欽一郎

近頃は諸種の水彩繪具が外國から輸入されるやうになつた、之は水彩畫が倍々盛んになる徴と見てもよからう、是等の繪具に就て初學者の參考として左に少しく感想を述べやう。

佛國ブルジョア製

是は前々から輸入されて居た繪具である、學生用として價も安く發色も、價の安い割合には良い、元來佛蘭西製の繪具は發色は能く冴へて居るが練り方は少し粗いやうである、次に談すルフラン製などを見ても分かるのであるが、併し稽古描きに使ふ繪具としては澤山であらう、注意することは、ガンポージ。プロシヤンブリュー。レーキ。グリーン等の中にて一度着けば容易に洗ひ落されぬ色があるから、是等は最初から其用心を以て使ふことゝ、色の耐久力に多少怪しい點もあることであるが、初學の中は畫をかくよりも繪具を損する方が多いのであるから、之でも差支へあるまい。チューブ入の方が乾製や器物入のものよりも良さそうである、殊に大管入りの方が良い。

英國ローネー製

之は此頃輸入の分は前の口よりも少しよいやうである、價もブルジョア製と略ぼ同じであるが、發色は佛國

製程冴へず少し暗い、其代はり練り方は佛國製よりも細かいやうである、之も初學者の無駄使ひ(少々失禮な文句ではあるが)には充分である、之も色によりては洗つても取れぬのがある、例へばクリムソンレーキや黄色の或種の如きものである、又た此コバルトブリューなどは色が濁つて居るやうである、併し何と云つても値段が値段であるから仕方がなからう。

先づブルジョアと同一程度の處で、向ふに良い色もある代はりに此方に良い色もある、つまり兩方の分の良い色を撰んで使ふのがよからう。

英國リーヴス製と云ふので、安くて良いのがあるが、日本に輸入されて居るかどうかは分からぬ。右は何れもチューブ入である。

佛國ルフラン製

之は學生用と云ふよりは寧ろ畫家用であろう、従つて價も稍や高いが、チューブが大きくなるから割合から云へば安い、夫故少し描けるやうになつた研究家は此繪具を使ふがよからう、特色は極めて色が冴へて居ることである、併し練り方は先づ粗いと云つてもよからう、其中でもクロームグリーンなどは随分粗い方である、此繪具のカドミウムイエロー。アリザリンヴァミリオ。ガイネットマダー。ブリューヴァデータの類の鮮麗なることは派手過ぎる位であるが決して悪るいことにはない、併し洗つても一寸落ちにくい氣味があるのと少し胡粉シミたやうに畫がなるのが缺點と云へば缺點であるが、そう理想通りに計りは行かないから、此繪具などは先づ我慢頃の理想的のものであるう。

英國ローネー美術家用製

之も良い繪具である、價はルフランと略ぼ同一でチューブは少し小さい、發色はルフラン程には冴へないが

練り方は細かい、矢張洗つても中々落ちぬ色がある、カルマインレーキなど、來たら一度着いたが最後雷が鳴つても離れない、ルフランのやうに胡粉ヂミては居らぬ代はり色のキ、はルフラン程よくない、先づ双方とも甲乙なしの色であらうが管の大きいのと色のキ、の能い方から云へばルフランの方が得かも知れないが、之も双方良い色を撰んで併用したらばよかるう。

英國ニュートン製

ニュートン製と云へば頭から上等品だと人が決めて居るが其實近頃は目に見へて品が落ちて來た、練り方が粗くなつて量が減つて居る、量が減つたと云ふのはチューブや入器が前よりも小さくなつて居ることである、砂糖が高くなつて菓子の大さが小さくなつたと同額である、そんなことをせず、量は前と同一にして置いて價を少しにても上げた方が正直でよくはないかと思ふ、それは兎も角として、ポイントシエナ、プロシヤンブリュー、ヴェリヂヤンなど粗くなつたことが能く分かる、コバルトブリューなども次に談すニューマン製から見れば粗いことが知れやう、ライトレッドなどニュートン製のをパレットへ出して暫く置くと上へ皮が出来て之を筆で溶けば粉が出る、ニューマン製のはそんなことはない、併し何と云つてもニュートンであるから、洗つても落ちない色などは先づ無いやうである、S Lの符號の付いて居る分は即ちスペシヤル、リストの色で之は互に如何う交ぜ合はせても變化も變色もせぬことを保證して居るのであるが本當だろらと思ふ、價は少し高いがそれ丈のことはある、練り方も他の品から見れば細かく發色も派手に失せず穩やかな良い色である。

チューブ入、陶器入、乾製など種々ある、郊外寫生にはチューブ入が最も便利である。

ニュートン製學生用と云ふのがある、私は之はまだ使つては見ないが矢張學生用であらうと思はれる。

英國ニューマン製

私が使つて見た経験では此繪具が一番良いやうである、發色も派手でなく穩やかに艶がある、練り方は最も細かい、少しも胡粉氣が無いから之で描いた畫は透明で且つ高尚に見へる、洗つても克く取れる、但し中には少し工合の悪るい色もないでは無い、それは例へばレモンイエローペールの如きは稍や粗く且つ永く經つとチューブが腐蝕してくる、コバルトブリュースカイの如きは餘り難有くない發色である、其代はりカドミウムイエロー。プラオンマダー。フレンチブリュール。コバルトの類はニュートンよりも餘程良い、殊にブラオンピントの如き、ニュートンのものはまるで水飴のやうで閉口するがニュートンの方は腰が強く色も落付いて居て誠に良い。

それで品評の結果は天位がニューマン、地位がニュートン、人位にはルフランとローネー美術家用と何れが來るかと云ふ處であるが、量が多いのと發色が鮮麗と云ふ點からルフランの方を取らうと思ふ、それで秀逸がローネー美術用、ブルジョアとローネー普通製とは二重丸位やつて置こう。

偉大なる畫とは何

四

矢代幸雄抄譯

四、新機軸を出す事 偉大なる繪の特質としては、最後に新機軸を出さなければいかぬ。即、主觀を基礎として製作せられたるものでなければならぬ。此點に關しては、繪畫は前述の詩の言葉に、びつたり合つて、氣尊き情操の起る土臺となる計りではなく、同時に此土臺を主觀の力、——想像力によつて、作り出さなければならぬ。此所が、即、高き藝術と低い藝術との區別のある所で、低い藝術は肖像だらふが、景色だらふが、靜物だらうが、只、眼前の物を其儘、其通りに寫す計りなるに、高い藝術は之と反對に、次の二途の内、何れか一方を取る。——即、其題目を全然想像から生み出すか、又は、既に有る材料を使つては居るが、其を組立るに、畫者の主